



株式会社日清製粉グループ本社

COBOLからの脱却を目指し、データ連携をモダナイゼーション

SAPやPower Platformなど多様なシステム間連携を柔軟かつスピーディーに実現

1900年創業の食品企業である日清製粉グループ。その純粋持株会社である日清製粉グループ本社では、基幹システムはSAP R/3を利用しており、取引先との情報のやりとりはEAI/EDIサーバー上で動くCOBOLプログラムで行ってきた。しかし最近ではSaaSの利用が増えており、Microsoft Power Platformでのデータ活用も拡大。これらのシステムを連携し、業務効率化を推進するとともに、開発工数が多いCOBOLからの脱却も求められていた。そこで「ASTERIA Warp」を導入。多様なシステム/サービス間のデータ連携を柔軟に行えるようになり、当初は想定していなかった電帳法対応のための連携処理構築も短期間で実現。これまでCOBOLで開発していたデータ連携もASTERIA Warpへ移行することで、開発生産性がさらに向上すると期待されている。

導入背景

- SAP R/3からのデータ抽出・生成するためのプログラムをCOBOLで作成していたが、開発やメンテナンスの工数がかかり、将来的に技術者が不足することも懸念され、COBOL脱却が目指された
- SaaSやマイクロソフト製品間の連携ニーズが増大し、少ない工数で迅速に対応することが求められていた
- 社内にはオンプレミス環境が多く残っており、完全クラウド型の連携ツールでデータ連携するにはエージェントサーバーが必要となるなどの制約があり、運用負担が増す懸念があった

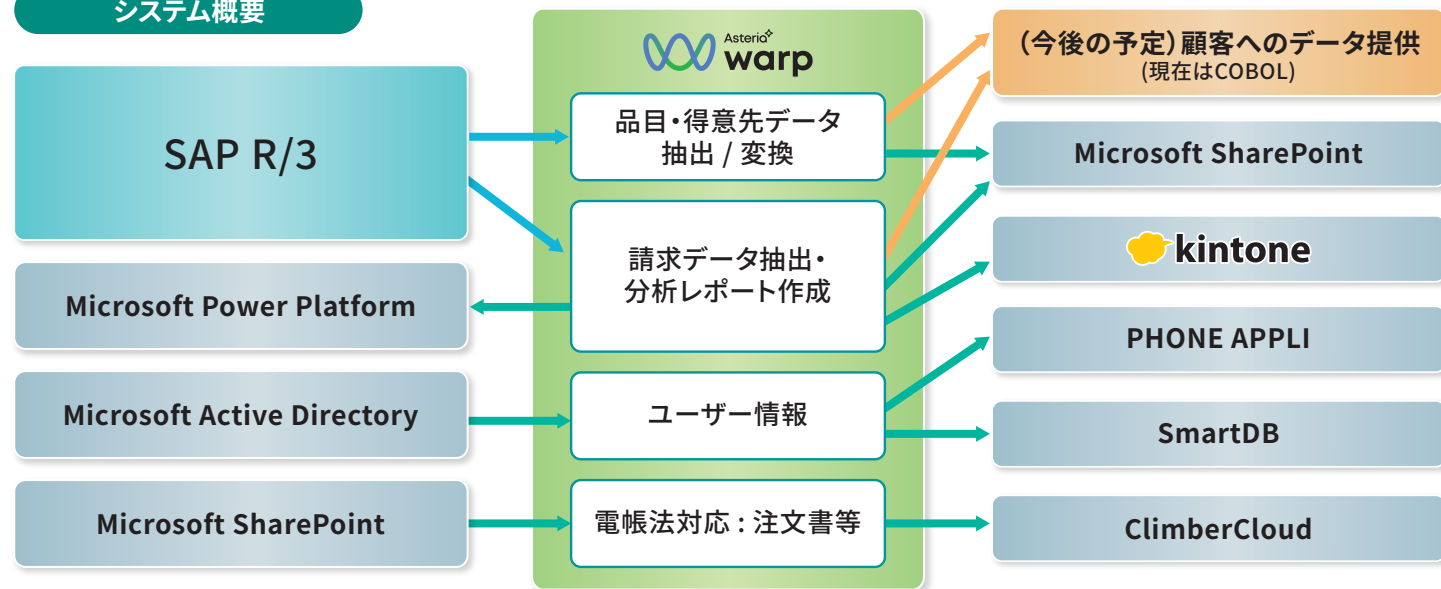
選定ポイント

- 日本語マニュアルが豊富に用意されており技術習得が容易にでき、GUIの開発環境により短期間での処理構築が可能
- kintoneアダプターやMicrosoft365 (Office365、SharePoint、Teams等) に幅広く対応したアダプターなど国内外の多様なシステムと容易に接続できるアダプターが豊富に揃っている
- SaaSとオンプレミスシステムとの連携を行う場合でも、エージェントサーバーを設置する必要がなく、サーバー運用の負担を軽減できる

効果

- SAP R/3やPower Platform、SharePoint、kintoneなどの複数システム間で連携処理を柔軟に構築。当初は想定していなかった電帳法対応などの新規の要望にも、スピーディーに対応
- GUI環境で試行を繰り返しながら連携処理を構築できるため、テストも含め開発工数が半分に以下に。連携処理が可視化され、メンテナンス工数削減にも貢献
- 現在はCOBOLで行っている基幹連携もASTERIA Warpで対応することを検討中で、さらなる運用工数の削減を期待

システム概要



ユーザーのひと言



当社は、SharePointなどのマイクロソフト製品を多用していますが、ASTERIA Warpを導入することでこれらのデータ連携のハンドリングが楽になりました。また、電帳法対応のために導入したClimberCloudとの連携も、当初は想定していませんでしたが、問題なく柔軟に対応できました。

導入パートナーである日本電気株式会社、NECソリューションイノベータ株式会社に対しては、当社のシステム状況も理解しているため、的確なサポートをしていただけたと評価しています。現在はCOBOLプログラムで行っている基幹系データの連携も、随時ASTERIA Warpへの移行を検討中で、これによって開発・メンテナンスの工数削減や、COBOL技術者減少などのリスク回避に貢献すると期待しています。

ご担当者様

User Profile



所在地：東京都千代田区神田錦町一丁目25番地

会社概要：製粉、加工食品、酵母・バイオ、健康食品、中食・惣菜、エンジニアリング、メッシュクロス等の事業子会社をもつ純粋持株会社

業種：製造業

URL：https://www.nisshin.com